

平成29年9月15日

消費者庁長官 岡村和美 殿

「コレステロール」、「飽和脂肪酸」、「トランス脂肪酸」の
栄養成分表示に関する見解ならびに要望

一般社団法人 日本動脈硬化学会
理事長 山下静也
栄養部会長 丸山千寿子

日本動脈硬化学会は、科学的根拠に基づき我が国の動脈硬化性疾患発症の増加を予防することを目的に学術的ならびに社会的活動を行ってまいりました。この度、発表しました「動脈硬化性疾患予防ガイドライン2017年版」¹⁾においても、喫煙、脂質異常症、高血圧症、糖尿病、メタボリックシンドローム、慢性腎臓病など動脈硬化性疾患発症・進展のさまざまな危険因子を併せて包括的に管理することを推奨しております。なかでも減塩に留意した「日本食」の有用性をアピールしております²⁾。「日本食」は長い歴史と深い文化が培ってきた長寿国日本を支える柱であるものの、近年の食の欧米化や外部化を含めて生活習慣の様相が大きく変わってきています。

日本人の血中コレステロール値は1970年以降上昇し、血中コレステロール値の低下を推進している米国人の値をすでに上回っています。食品由来のコレステロールと飽和脂肪酸の過剰摂取が血中コレステロール値を上昇させることはすでに多くの研究から明らかになっており^{3,4)}、可及的速やかにこれらの原因となる食習慣を是正する必要があります。さらに、加工食品に含まれるトランス脂肪酸が血中コレステロール値に影響するとともに動脈硬化性疾患の発症に強く関与する⁵⁾ ことについて、多くの知見があることは貴庁でもご承知のとおりです。「日本人の食事摂取基準(2015年版)」でもトランス脂肪酸と冠動脈疾患のリスクについては触れられておりますが、我が国での摂取量は少ないとして摂取基準は示されていません。しかし最近、若年日本人で工業由来のトランス脂肪酸摂取量と代謝異常指標との関連や⁶⁾、メタボリックシンドローム患者および冠動脈疾患患者で工業由来のトランス脂肪酸であるエライジン酸の血中濃度が高い⁷⁾ という危惧される実態が明らかになっています。このような若年者でのトランス脂肪酸摂取は、未だ減少を見ない非心原性脳梗塞や虚血性心疾患が将来さらに増加する要因になると危惧されます。

生活習慣病を予防するためには、国民一人一人が健康的な食生活を営む能力を獲得

する必要があります。健康増進法では、「国民は、健康な生活習慣の重要性に対する関心と理解を深め、生涯にわたって、自らの健康状態を自覚するとともに、健康の増進に努めなければならない」（第二条）と国民の責務を示すとともに、「国及び地方公共団体は、教育活動及び広報活動を通じた健康の増進に関する正しい知識の普及、健康の増進に関する情報の収集、整理、分析及び提供・・・を図る・・・」（第三条）と国及び地方公共団体の責務を謳っています。特に、外食や加工食品への依存度が急増している日本においては、食教育が極めて重要です。

このようななかで、貴庁が栄養成分表示について検討し、国民の安全を守り、健康を維持・増進するための課題解決を目指して、平成 27 年 4 月に施行された食品表示法において栄養成分表示を義務化されたことは大きな進展といえましょう。

日本動脈硬化学会は他学会の同意のもと、平成 25 年 4 月に「栄養成分表示に関する見解並びに要望」（添付 1）を貴庁に提出いたしました。その中で、「脂質」の表示に加え、動脈硬化性疾患発症のリスクとなる「コレステロール」、「飽和脂肪酸」、「トランス脂肪酸」の表示義務化をただちに行うことを要望いたしました。しかしながら、施行された「食品表示基準」では「エネルギー、たんぱく質、脂質、炭水化物、ナトリウム（食塩相当量）」の 5 項目のみが義務表示とされ、「飽和脂肪酸」は推奨表示項目とされましたが、「コレステロール」は推奨表示の対象成分とされませんでした。「トランス脂肪酸」については、「トランス脂肪酸の情報開示に関する指針」が平成 23 年 2 月に示されているものの、食品表示基準に規定する栄養成分としてさえ扱われていません。

健康障害を予防するために「コレステロール」、「飽和脂肪酸」は低減が目的であるのに対し、「工業製品としてのトランス脂肪酸」は摂取を「ゼロ」にすることを目指さなければなりません。工業製品としてのトランス脂肪酸は重大な心疾患リスクとなることから、欧米を始めアジア諸国でもトランス脂肪酸を義務表示項目とし含有量の規制措置を講じ、食品中のトランス脂肪酸含有量を低減させる成果を認めています⁸⁻¹⁰。我が国において、将来を担う若年者の動脈硬化性疾患を予防するためには、リスクとなる栄養成分の情報が広く提示されなければなりません。

以上から、食品表示基準において「脂質」に加え、「コレステロール」、「飽和脂肪酸」、「トランス脂肪酸」を義務表示とすることを要望いたします。

本要望書に同意した学会（五十音順）

特定非営利活動法人 日本栄養改善学会 理事長 武見ゆかり

特定非営利活動法人 日本高血圧学会 理事長 伊藤 貞嘉

一般社団法人 日本循環器学会 代表理事 小室 一成

公益社団法人 日本小児科学会 会長 高橋 孝雄

一般社団法人 日本腎臓学会 理事長 柏原 直樹

一般社団法人 日本糖尿病学会 理事長 門脇 孝

一般社団法人 日本肥満学会 理事長 春日 雅人

一般社団法人 日本臨床栄養学会 理事長 白井厚治

一般社団法人 日本臨床栄養協会 理事長 小沼富男

引用文献

- 1) 日本動脈硬化学会編:動脈硬化性疾患予防ガイドライン 2017年版. *日本動脈硬化学会* 東京 2017.6.30.
- 2) Tada N, Maruyama C, Koba S, et al: Japanese Dietary Lifestyle and Cardiovascular Disease. *J Atheroscler Thromb* 2011;18:723-734
- 3) Berger S, Raman G, Vishwanathan R, et al. Dietary cholesterol and cardiovascular disease: a systematic review and meta-analysis. *Am J Clin Nutr* 2015;**102**:276-94.
- 4) Hooper L, Martin N, Abdelhamid A, et al. Reduction in saturated fat intake for cardiovascular disease. *Cochrane Database Syst Rev* 2015:CD011737.
- 5) Mozaffarian D, Aro A, Willett WC. Health effects of trans-fatty acids: experimental and observational evidence. *Eur J Clin Nutr*. 2009;63 Suppl 2:S5-21
- 6) Yamada M, Sasaki S, Murakami K, et al. Association of trans fatty acid intake with metabolic risk factors among free-living young Japanese women. *Asia Pac J Clin Nutr*. 2009;18: 359-71.
- 7) Mori K, Ishida T, Yasuda T, et al. Serum Trans-Fatty Acid Concentration Is Elevated in Young Patients With Coronary Artery Disease in Japan. *Circ J* 2015;79:2017-2025
- 8) 消費者委員会 トランス脂肪酸に関する取りまとめ
http://www.cao.go.jp/consumer/iinkaikouhyou/2015/houkoku/1505_syokuhinwg_houkoku.html
- 9) 食品安全委員会 食品に含まれるトランス脂肪酸の食品健康影響評価

https://www.fsc.go.jp/sonota/trans_fat/trans_fat.html

- 10) 農林水産省. 加工・調理食品の安全確保. トランス脂肪酸に関する情報. トランス脂肪酸についての各国・地域の取り組み.

http://www.maff.go.jp/j/syouan/seisaku/trans_fat/t_kokusai/overseas.html